

災害に備え

被害を防ぐ

安全・安心なまちづくりを進めるために



本年5月、私たちの命を守る「防災気象情報」が大きく変わりました。警報・注意報の情報に応じて「レベル」がつけられ、よりわかりやすくなりました。こうした中、先月、豪雨により防災気象情報変更後県内初となるレベル4土砂災害危険警報が本町に発表されました。

今月は、警報発表後の対応状況などとともに、地域を守る存在である消防団の活動について紹介しながら、町全体における災害への備えや、安心・安全なくらしを支える防災の取り組みのあり方について考えます。

新たな防災気象情報のレベル

<住民がとるべき行動>		河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮
命の危険 直ちに安全確保！	警戒レベル 5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報
危険な場所から 全員避難	警戒レベル 4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報
危険な場所から 高齢者等は避難	警戒レベル 3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報
自らの避難行動を 確認する	警戒レベル 2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報
災害への心構えを 高める	警戒レベル 1	早期注意情報			

※警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況であると定義している。
避難を行う場合は、警戒レベル4の段階で避難を行うものとされている。

(出典) 気象庁ホームページ(新たな防災気象情報について(令和8年～))を加工して作成

新たな 防災気象情報

私たちの暮らしや安全を守るうえで、欠かせない「防災気象情報」。メディアなどでよく目にしたり、耳にしたりしますが、本年5月に気象庁では、防災気象情報の内容を変更しました。そのポイントは、これまでの警報・注意報の情報名に1から5までの「レベル」が付記され、避難判断の目安が明確になったことや、危険な場所から避難することが必要な状況であるレベル4相当の情報の「危険警報」として発表される点などです。

これにより、これまで複雑でわかりにくかった防災気象情報が、レベルで確認できるようになり、住民の避難行動に直結するレベルがすぐにわかるようになりました。

本町に県内初 レベル4の発令

7月26日、本町では1日で169ミリの降水量を観測し、記録的な大雨となりました。午前5時7分にレベル4土砂災害危険警報が、防災気象情報の変更に山形県内で初めて発表され、10時5分に一時レベル2土砂災害注意報となったものの、13時7分に再びレベル4土砂災害危険警報が発表される状況となりました。



▲道路への土砂流入が残る豪雨時の国道113号線

特集 災害に備え被害を防ぐ ～安全・安心なまちづくりを進めるために～

町では、この経過を踏まえ、段階的に旧北部小中学校、旧沖庭小学校、健康管理センター、小国町役場の4つの避難所を開設しました。また、緊急の災害対策連絡会議を随時開催し、速やかな情報収集と避難所などの情報発信、被害状況の把握などに努めました。短時間で多量の雨が降ったことにより、小渡地区に設置されている荒川の観測地で氾濫危険水位を超え、一部の地区で増水により農地、橋梁などの被害報告があったほか、国道113号の飯豊町側において土砂が路面に流出したことにより通行止めが発生し、一時南陽市方面への移動が制限されるなどの影響がありました。一方、今回の豪雨による人的被害は確認されませんでした。町は、今回のレベル4土砂災害危険警報発表への対応のあり方などについて検証

を進めており、人的被害を発生させない速やかな体制構築や、今後に向けた情報収集及び発信の課題等を洗い出しながら、引き続き状況に応じて対応できるように備えていくこととしています。

欠かせない 「地域の力」

今回の豪雨などの災害においては、「公助」による町の対応だけでは難しい場合も想定されます。そのために欠かせないのが「共助」、すなわち地域の力です。今回の場合では、危険な場所にいる人は全員避難を行う段階であるレベル4の気象情報が発表されたことから、地域のかたの知識や経験などをもとに、地域内の危険な箇所などを把握し、ともに手を取り合って対応することも重要といえます。その際、大きな役割を担うの

が小国町消防団です。7月26日においても、町内各分団がそれぞれ活動を行いました。須貝篤志第5分団長は「第5分団では、町から降り続いた雨により川が増水し、小渡地区の水位が上昇しているとの報告を受け、団員による水位のパトロールを継続して行いました。パトロールは川の上流地域も行い、水位の状況を何度も確認しました。以前、尻無沢地区の戸沢橋の崩落や、令和4年8月豪雨を経験し



▲須貝篤志第5分団長

ていることから、今回のような豪雨も大きな恐怖感を持つており、不安な気持ちになりました。その中で消防団が率先して地域の状況を確認し、安全を守ることが大切であると感じました。また、私は羽越水害が発生した昭和42年に生まれたこともあり、水害については強い思いがあります。過去の被害を繰り返さないためにも、消防団として引き続き地域を守る活動を展開していきます。」とお話いただきました。

また、宇津木和人第8分団長は、「私たち第8分団では、これまで災害が発生する可能性がある場合は、自主的・積極的に地区内のパトロール活動を行ってきました。今回の大雨に際しても、団員からパトロール実施の申し出を受け、それを許可した上で、2人1組で白沼地区、叶水地区にお

特集 災害に備え被害を防ぐ ～安全・安心なまちづくりを進めるために～



▲消防演習での消防団の活動の様子

いてパトロールを展開しました。私たちは、災害による被害を発生させない、発生した場合も最小限にとどめることを日々念頭において活動しています。町民のかたへは、消防団がパトロールや避難の声がけなどを行っている際は、危険がすぐ近くまで来ているという危機感をもっていただき、早め早めの行動をとっていただければと思います。」と、災害に事前に備える消防団の活動と、町民に向けての

災害意識の醸成についてお話いただきました。

災害に備える 体制づくり

災害はいつ起きるかわかりませんが、発生を防ぐことは難しい点も多いですが、被害を最小限に食い止めることはできます。そのためには、情報を正確に把握し、状況に応じて、速やかに、そして適切に対応することが求められています。町では、年に一度の総合防災訓練の実施に加え、今年度においては、中小河川の洪水浸水想定区域および、本年5月に行われた気象情報の改正等を反映したハザードマップの改定を行います。また、避難所等での飲料水や非常食、紙おむつなどの備蓄品の計画的な更新配備を進めています。町民の皆さまも、災害発生の可能性がある場合などには、町や

県などの行政が発信する防災無線やホームページ、そして新たな防災気象情報についても確認いただき、引き続き、災害に備えるための適切な対応をお願いいたします。



▲災害への備えには防災マップ（ハザードマップ）もご活用ください

防災情報は
町公式LINEでも
発信しています



@shiroimori_oguni